

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2004. **1**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 237

日本野鳥の会 埼玉県支部

野鳥を見て楽しみましょう

新年明けましておめでとうございます。

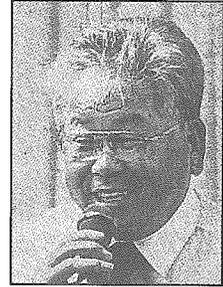
日本野鳥の会埼玉県支部は今年 20 周年になりました。2,500 名の会員の皆様方に支えられ、支部報の発行、年 100 回以上の探鳥会など、各部の活動がすべてボランティアで 20 年間休みなく運営されてきました。

三室地区定例探鳥会に引き続いて、昨年 3 月には、大麻生定例探鳥会も 200 回を記念する探鳥会になりました。県内の野鳥確認数も、1978 年 4 月から 2003 年 3 月までで 312 種と、国内の半数以上が記録されました。

これからも、鳥見を楽しむことが自然保護につながるという野鳥の会独特の活動を、会員の皆様方と一緒に、心身健康で続けて参りたいと思います。

今年もご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本野鳥の会埼玉県支部 支部長 藤掛保司



埼玉県におけるサギ類コロニーの動向

埼玉県環境科学国際センター 嶋田知英

はじめに

日本野鳥の会埼玉支部会員の皆様、はじめまして。埼玉県環境科学国際センター自然環境担当の嶋田と申します。サギ類のコロニーとねぐらに関する情報提供につきましても、大変ご協力をいただきありがとうございました。この場をお借りし厚くお礼申し上げます。

さて、ここでは、情報提供いただいた経緯と、中間的なものですが結果について報告をさせていただきます。

情報提供依頼の経緯

埼玉県では昨年より農林総合研究センターが中心となり、「自然再生のための住民参加型生物保全水利施設管理システムの開発」という研究事業に取り組んでおります。その中の一つとして、野鳥の農業用水路の利用実態と、積極的に利用する水路の条件を明らかにすることを目的とした調査を行っています。なかでも、典型的な水辺の野鳥であり、水田や農業用水路を採餌や休息の場として利用し水田生態系に強く依存して暮らしているサギ類は、本研究の主要な調査対象です。そこで、まずはサギ類の分布状況を知るため、コロニーに関する情報を収集してまいりました。その際、支部役員の方に支部報を通じた情報提供をお願いしたところ、快く引き受けていただき、コロニーやねぐらに関する情報を提供していただいた次第です。

調査結果及び考察

提供いただいた情報や、自然環境保全基礎調査（環境省 1994）の結果をもとに、2003 年 6 月から 8 月にかけて、現地調査や聞き取り調査を行いました。その結果、繁殖を確認したコロニーは 5 ケ所、夏ねぐらは 3 ケ所でした（表 1）。1992 年に行われた環境省自然環境保全基礎調査では、コロニーが 14 ケ所確認されていますが、それに比べるとかなり少なくなっていることが分かります。また、基礎調査の際に確認されたコロニーのうち、今回の調査でも確認されたコロニーは、久喜市の一ヶ所のみで、他は消失し、新たなコロニーが形成されたと考えられます。ほぼ 10 年間で、1 ケ所を除き、他のすべてのコロニーが消失あるいは移動したことになります。このような短期間のコロニーの消失や移動は他県でも報告されており（佐々木 2001Strix）、サギ類コロニーの分散や小規模化、移動は、近年、一般的な傾向のようです。

かつて、さいたま市上野田にあった「野田のサギ山」の様に 100 年を越えるような長期間安定したコロニーは現在形成されにくい状況となっているようです。

表1 埼玉県内のシラサギ類繁殖コロニーと夏ねぐらの状況

所在地	推定 個体数	確認種	営巢の 有無	植生	
				上層	下層
妻沼町江袋沼	30	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ	無	ヤナギ類、エノキ、ハンノキ、クヌギ、ケヤキ	アズマネザサ、アシ、クサギ、クワ
熊谷市奈良	150	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ	無	—	アシ
花園町小前田	50	—	有	マダケ	—
川越市びん沼	50	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ	有	マダケ、エノキ、シラカシ、ケヤキ、クヌギ	アシ、シュロ
川越市伊佐沼	50	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ	無	ヤナギ類、サクラ類	アシ
上尾市領家	50	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ	有	マダケ、*ヤナギ類、エノキ、ハンノキ、ケヤキ	アズマネザサ、*アシ、クワ
越谷市中島	300+	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ	有	マダケ、ヤナギ類、エノキ、カキ、サクラ類	アシ
久喜市甘常院裏	100+	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ	有	マダケ、ケヤキ、シラカシ、ニレ類、スギ、	アズマネザサ、シュロ

図1 久喜市甘常院裏のサギ類コロニー

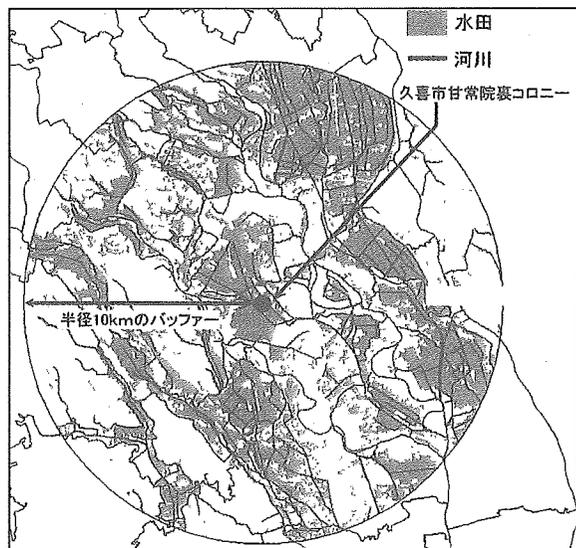
その原因は明らかではありませんが、周辺の宅地化による住民との軋轢など、人為的な要因が大きいのではないかと指摘されています（佐々木 2001）。

今回、繁殖が確認された5地点のうち、3地点は河川や池沼に隣接したコロニーでしたが、花園町、久喜市のコロニーは水辺ではなく、屋敷林や社寺林に形成されていました。特に久喜市のコロニーはかなり市街化が進んだ地域内にあり、民家に隣接した場所で営巣していました（図1）。かつての「野田のサギ山」も民家の屋敷林に形成されたコロニーでしたが、このことから、人間の存在それ自体がコロニー形成の制限要因ではないように思われました。人間による追い出しなどがなければ市街地でも安定したコロニーを形成することが出来るのかもしれませんが。

また、繁殖が確認された5地点は、いずれもマダケなどの竹林内にコロニーが形成されていました。他県のサギ類コロニーに関する報告では（佐々木



図2 コロニーを中心としたバッファの生成



2001、上田 2003)、クヌギ、コナラなどの雑木林に形成されている事例もありますが、竹林に形成されているケースが多く、自然環境保全基礎調査「鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐらの全国分布調査」(環境省 1994)では「サギ類のコロニー

表2 コロニー・ねぐら周辺の環境 (半径 10km)

所在地	営巢の有無	水田比率(%)	河川総延長(km)
花園町小前田	有	13.2%	381.2
川越市伊佐沼	有	28.5%	580.6
上尾市領家	有	35.8%	620.2
越谷市中島	有	30.1%	572.2
久喜市甘常院	有	55.8%	714.8
妻沼町江袋沼	無	34.7%	582.4
熊谷市奈良	無	36.6%	593.4
川越市びん沼	無	21.5%	554.7
(さいたま市上野田)*	無	22.7%	-

はタケ・ササ類の進入する林が約6割を占めていた」とも報告されており、サギ類のコロニー形成に竹林が重要な役割を担っていることが窺われました。その要因も明らかではありませんが、猛禽類やヘビなど、捕食者と関連があるのかも知れません。

今回得られたコロニーやねぐらの分布情報をもとに、周辺環境との関係について若干解析を行ってみました。コロニー形成に関係があると思われる要因には、①地形、②気象条件、③人的要因、④餌資源などが考えられます。ここでは、特に餌資源に注目し、主な採餌場と考えられる、水田と、河川がコロニー周辺にどの程度分布しているのかを解析しました。解析に用いた水田面積と河川に関するデータは、それぞれ、自然環境保全基礎調査と国土地理院空間データ基盤 25000 のデータです。確認されたコロニーやねぐらを中心に半径 10 km の円を描き(図 2)、その中にある水田面積と河川の長さを計算しました。その結果をまとめたものが表 2 です。営巢の有無により、水田比率や河川総延長に明らかな差は見られませんが、比較的長期間安定している久喜市のコロニー周辺は、他のコロニーやねぐらに比べ水田比率、河川総延長ともに高く、多くの採餌場が周辺にあることが分かります。また、花園町のコロニーは、水田比率が極めて低いのですが、約 1.5km 南に荒川が流れており、そこを餌場として利用しているのかも知れません。野田のサギ山があった場所についても同様の計算を行ったところ、水田比率は 22.7%となり、決して高くないことが分かりました。野田のサギ山は見沼たんぼに面しており、かつては見沼の水田を餌場として利用していたと考えられますが、近年は、水田転作などにより畑地化が進み、餌場としての水田が急速に減少したのではないかと考えられます。

おわりに

埼玉県のサギ類コロニーに関する情報は、比較的豊富で、自然環境保全基礎調査「鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら」(環境省 1994) や、「埼玉県におけるサギ類の集団繁殖地の変遷」(成末 1992) などがあります。しかし、その後の実態については明らかではありません。今回、皆様のご協力により、おおよその現状を把握することが出来ました。さらに、情報を収集し、解析なども行ってゆきたいと考えております。今後も、情報提供をお願いいたします。

引用文献

- 佐々木凡子 2001 京都府におけるサギ類の集団繁殖地の分布と保護 *Strix* 19:149-160
 上田孝寿 2003 千葉県白井市におけるシラサギ類の集団繁殖地の観察記録(第2報) *Strix* 21:187-194
 成末 1992 埼玉県におけるサギ類の集団繁殖地の変遷 *Strix* 11:189-209
 環境省 1994 第4回自然環境保全基礎調査動植物分布調査報告書「鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら」

2003年秋 埼玉県タカの渡り調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査は9月20日、21日に予定されたが両日とも台風15号と前線による雨のため中止されました。台風通過後の23日に実施しましたので、それを報告します(表1、表2)。

調査に際し多くの方々のご協力を頂きありがとうございました。
(小荷田行男)

表2 タカの渡り、種別観察数

調査地	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	SP
物見山駐車場	1	1		6	5	1	50	1
金勝山 小川少年自然の家		6	9		2	2	40	
天覧山		2		1	1		67	

表1 調査状況

調査地	標高	調査者	調査時間	天候
金勝山小川少年自然の家(小川町)	264m	後藤康夫、北村 隆	8:30~13:00	晴
物見山駐車場(東松山市、鳩山町)	130m	澤井 清、他多数	7:00~14:00	晴
天覧山(飯能市)	190m	天覧山タカ渡り観察グループ	7:00~14:30	晴

2003年秋 物見山(東松山市、鳩山町) タカの渡り観察結果

澤井 清(鳩山町)

9月5日から1ヶ月間、物見山駐車場にてサシバを中心としたタカの渡りを観察したので報告致します。観察にあたりましては北村隆、三浦ご夫妻、栗原ご夫妻、その他鷹ファンの会員の方々、比企ワシタカ研の田中、中島各氏らの協力を頂きました。

月/日	天気	風	観察時間	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	ツミ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	チボウゲ	SP	月/日	天気	風	観察時間	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	ツミ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	チボウゲ	SP
9/5(金)	晴		9:00~13:00									16	2	9/22(月)	雨のち曇	—	—										
9/9(火)	晴		9:00~12:00	1					2	2			2	9/23(火)	晴	強風	7:00~14:00	1	1		6	5	1	50	1		
9/10(水)	晴		9:00~12:00											9/24(水)	(台風)	—	—										
9/11(木)	晴		9:00~12:00				1							9/25(木)	(台風)	—	—										
9/12(金)	薄曇		8:50~13:00	2	1	1	3		1	10				9/26(金)	(台風)	—	—										
9/13(土)	雨	—	—											9/27(土)	晴	北東	9:00~14:00	1		1	1		1	11	1		
9/14(日)	晴		9:00~16:00			1	1		2	10			2	9/28(日)	晴	北東、西	9:00~12:00		4		2		2	21	1		
9/15(月)	晴		6:30~14:00			1	1		1	4	36		1	9/29(月)	晴		9:00~13:00						1	3	1		
9/16(火)	曇		9:00~13:10									5		9/30(火)	晴	北西強風	9:00~14:00			1			1		2		
9/17(水)	晴		7:00~14:00	6			2						1	10/1(水)	曇のち晴		8:50~11:45				1		1	8	1		
9/18(木)	晴		9:00~13:00	2	1				3	3				10/2(木)	曇のち晴	微風	9:20~13:00							2			
9/19(金)	曇		9:00~12:00	2					2	1	1		2	10/3(金)	曇のち晴	北西から北東	9:20~13:30			1				2	1	2	
9/20(土)	雨	—	—											10/4(土)	曇のち晴	北西	9:30~13:00	1			1		6	6			
9/21(日)	曇		13:00~14:00	5								11	1	10/5(日)	晴		9:00~12:00			1	3		2		2		



岩槻文化公園 ◇10月16日、エゾビタキ1羽がフライングキャッチ。エナガ4羽十、「ジュルル」と鳴きながら樹間を動く。ユリカモメ6羽。10月17日、キセキレイ、アカゲラ♂1羽、ツツドリ?1羽。元荒川でイカルチドリ2羽。10月21日、サシバ2羽、カラスにモビングされ南へ。途中サシバ同士でもからみあっていた。ツミ1羽が上空を舞う。10月23日、ジョウビタキ♂1羽♀1羽が一緒にいた。アオジ♀1羽、マガモ♂1羽♀1羽、ヒドリガモ、カワセミ♀1羽、ホオジロ♂1羽♀1羽、コガラ1羽。10月24日、カケスが異様な声を出して飛び去ったと思ったら、頭上をオオタカ若鳥1羽が通り過ぎた。10月31日、エナガ5羽十、2羽は尾が短く、若鳥と思われ、10月16日までの群れとは別と考えられる。ムクノキにツグミ類が来ていたが警戒心が強く、識別できず。11月1日、シメ飛翔計7羽、エナガ2羽十、ジョウビタキ♀2羽、カシラダカ1羽。11月4日、ユリカモメが上空で騒いでいるので見回したら、オオタカが帆翔、それにツミがつかかかっていった。アカハラ、シロハラ。ようやく大型ツグミ類を確認。11月6日、元荒川でカワウ60羽十、潜水しながら下流へ行く。ここでカワウを一度にこんなに多く見たのは初めて。ツミ1羽、ムクドリ20羽にモビングされながら西へ(鈴木紀雄)。◇11月15日午前10時頃、シメ3羽、ツグミ。オオタカ若鳥1羽、カラス3羽に激しく追われ猛烈なスピードで林の中へ飛び込み、なんとかカラスを振りきった。11月16日、元荒川でイカルチドリ4羽、ダイサギ1羽、アオサギ1羽(藤原寛治)。

岩槻市長宮 ◇10月19日、両側草地の農道の先に小鳥の姿。初めはタヒバリかと思ったが、体色がオリーブ褐色、眉斑ははっきり、眉斑に沿って上に黒線も。胸から腹の黒斑はとても太く、胸では斑がつながって縦筋に見えた。背は全体にベタっとした一様な

色。耳羽、後方の白斑ははっきり分からなかったが、ピンズイと結論。ピンズイもこんな広いフィールドにいることがあるんですね。10月28日、畑地でタヒバリ2羽(鈴木紀雄)。

岩槻市加倉5丁目 ◇11月1日午前5時30分頃、自宅でジョウビタキの声。最初は寝惚けていて「ヒッヒッ・・・チャッチャッ」と聞こえていたので、珍しくセッカが家の周りで鳴いていると夢の中で思っていた。その内、目が覚めてきて鳴き声ははっきり聞こえてきた。「ヒッヒッヒッ、カッカッ」、また今年も戻ってきた(藤原寛治)。◇11月9日、自宅の庭でアオジ1羽、ハナミズキから地面の方におりていった。11月15日、上空をアオサギ1羽通過(藤原真理)。

蓮田市黒浜 ◇10月17日、用水近くでノビタキ1羽。10月21日、黒浜療養所内でキビタキ♀1羽。10月23日にもキビタキ♀1羽を確認、同一個体か。10月24日、上沼上空を舞うハヤブサ1羽、しだいに高度を上げ、南へ。沼のカモたちはなぜか騒がず。10月27日、黒浜療養所内の林床、2ヶ所から「シーッ」との声。おそらく大型ツグミ類。10月31日、黒浜療養所内でシメ確認。11月4日、上沼でカワウ、マガモ♂3羽、ハシビロガモ♀1羽、オカヨシガモ3羽など(鈴木紀雄)。◇11月8日午前11時頃、上沼でオオバン5羽、バン1羽、マガモ♂2羽、コガモ3羽、カイツブリ7羽、カケス1羽(藤原真理)。

さいたま市北区吉野町2丁目 ◇10月20日午後3時頃、新堀公園のそばの屋敷林からカケスの声(藤原寛治)。

春日部市内牧(宮代側) ◇10月23日、林内を猛禽2羽飛ぶ。ハイタカとオオタカか。ジョウビタキ♂1羽、アカゲラ♂1羽、アオゲラ♂1羽。10月27日、ジョウビタキ♂1羽、アオジ(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区大谷 ◇11月5日、大谷環境広場でイカルチドリ2羽、タシギ2羽、ツグミ2羽(鈴木紀雄)。

久喜市宮蒲公園昭和池 ◇11月14日、カモの群れ中にトモエガモ♂♀各1羽(大坂幸男)。

寄居町中間平緑地公園 ◇10月11日午前、イカル10数羽飛翔。コゲラ、シジュウカラの混群、アカゲラ、メジロ、カケス、ヤマガラ、コサメビタキ1羽他。ニホンリスの姿も(鈴木敬)。

寄居町玉淀湖 ◇10月11日午後2時10分頃、ヤマセミ♀1羽。水面近くを鳴きながら飛び、湖面に張り出した横枝にとまった。カワセミ2羽飛翔。オシドリ30数羽(鈴木敬)。

横瀬町泉民の森 ◇11月2日、口笛のようなウソの声。コガラ、エナガ、シジュウカラの混群(コガラの数が多かった)。数十羽のアトリの群れ(藤原寛治)。

狭山市稲荷山公園 ◇10月27日午前、ビンズイ5羽、アオジ数羽。いずれも今秋初認(久保田忠資)。

坂戸市浅羽ピオトープ ◇10月25日午前6時30分頃、4月にできたばかりのピオトープの湿地でノゴマ♂1羽。10月26日同地でノゴマ♀1羽。当地初観察記録(坂口稔)。

川越市新河岸川 ◇11月13日、河川工事もほぼ完了した新河岸川を久しぶりにぶらりと散歩したらオシドリ♂♀各1羽。♂はエクリップス。オカヨシガモ、ホシハジロ等カモ7種が集まっていた(藤掛保司)。

表紙の写真

サバンナシトド (スズメ目ホオジロ科)

昨年11月葛西臨海公園で撮影されたこの1枚。正面から見るとまるで山賊の顔。
別名クサチヒメドリ。埼玉県内では、1991年11月さいたま市秋ヶ瀬のパンディング調査で捕獲されたのと、1998年3月に蓮田市内で多くの人に撮影された2例があります。論文として公表されていないという理由で、鳥学会の日本産鳥類目録第6版には掲載されていません。

写真・藤掛保司 解説・編集部

行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月3日(土・祝)
集合：午前9時30分、さぎ山記念公園入口。
交通：大宮駅東口7番バス乗り場から、大01、大02、大02-2系統で約20分。「さぎ山記念公園」下車。正月ダイヤの問い合わせは国際興業さいたま東営業所まで(TEL 048-812-1577)。駐車場もありますが、飲酒運転は厳禁です。

担当：海老原、楠見、福井、工藤

案内：唯一アルコール持参OK、恒例の探鳥会。見沼田んぼの冬鳥たちに挨拶してから、陽だまりに持ち寄った食べ物飲み物を広げ、野外懇親会! 雪が降りませんように。

千葉県船橋市・船橋海浜公園探鳥会

期日：1月4日(日)

集合：午前9時30分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後、京成バス9：40発船橋海浜公園行きに乗車、終点下車。公園には駐車場あり。

担当：杉本、佐久間、菱沼（一）、齋藤
見どころ：スズガモ、ミヤコドリの越冬地としては日本一です。ほかのシギやチドリ類、カモ類もたくさん見られます。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月7日（水）

集合：午前10時10分、森林公園南入り口前。
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9：54発バスにて終点下車。
費用：入園料400円（子供80円）
担当：藤掛、大坂、兼元、堀（敏）、堀（久）、高橋（ふ）、池永、藤澤、高橋（優）
見どころ：新春三回目の探鳥会、南口から例年のコース（山田大沼を予定）です。山野の鳥とカモたちが身近で観察できます。鳥合せの後、持参のお弁当を広げながら鳥の話をしませんか。

久喜市・菖蒲公園昭和池探鳥会

期日：1月11日（日）

集合：午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。
交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、朝日バス菖蒲仲橋行き8：40発にて除堀（よけぼり）下車。徒歩約15分、バス停からご案内します。
担当：大坂、玉井、内田、長嶋、伊藤（隆）
見どころ：数百羽のカモや水鳥に会えます。その中の主役はトモエガモ、これを探し出したときの喜びは格別です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月11日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。
担当：中里、後藤、和田、森本、石井（博）、倉崎、高橋（ふ）、藤田、栗原、大澤、飛田
見どころ：今年一年の期待を込めて鳥たちに新年のご挨拶。昨年の一月の例会では

ベニマシコがその艶やかな衣装を見せてくれました。皆で探して今年のお年玉にしよう。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月12日（月・祝）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。
交通：埼京線武蔵浦和駅2番バス乗り場から、下笹日行き8：37発にて、彩湖道満グリーンパーク入口下車。交差点まで戻り左折して土手を越える。
担当：倉林、藤掛、百瀬、有馬、馬場、森（秀）、新部、赤堀
見どころ：カモの仲間やカムリカイツブリが湖で、林や草原では飛び交う小鳥たちが、見上げる大空にはオオタカやチヨウゲンボウが待っています。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月12日（月・祝）

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス1番バス停前。集合後、8：45発春日部エミナス行きにて「共栄大学・短大前」下車。または午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。
担当：吉安、中村（榮）、橋口、石川、廣川、松永、宮下、吉岡（明）、田村、新井（良）、野村（弘）、野村（修）
見どころ：新春の内牧にも冬鳥が集まり、賑わいを見せています。ジョウビタキ、シメ、アカハラなどを探しましょう。

吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：1月17日（土）

集合：午前9時30分、吉見百穴公園前。
交通：JR高崎線鴻巣駅東口、中村カメラ店前から、朝日バス9：00発東松山行き、または東武東上線東松山駅から、8：59発鴻巣免許センター行きにて「百穴入口」下車、徒歩約5分。
担当：岡安、藤掛、内藤、島田、立岩
見どころ：吉見丘陵の史跡の周囲を歩くコースです。昔に思いをめぐらしながら、

一緒に自然散策しましょう。身近な小鳥たちや、カモ類に親しむにはよい機会です。

注意：駐車場利用者は必ず、百穴公園入場券を購入して、フロントガラス内側に見えるように置いてください。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月18日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口。集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、兼元、森(力)、清水、小菅、新部

見どころ：今年は支部の20周年、当然三室の探鳥会も20年、今年もよろしく。仲間と語り合いながら鳥を見よう。冬鳥の最盛期です。久しぶりにタゲリ君も出てくれるかな。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：1月18日（日）

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀬駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8：17発、または東武東上線川越7：37発にて寄居乗換え、秩父鉄道8：45発三峰口行きに乗車。

担当：佐久間、青山、井上、堀(敏)、堀(久)、堀口、喜多、大澤、小池(順)

見どころ：新年のここのお目当てはヤマセミか、それともオシドリか。今年も美形の姿を見せてくれるのでしょうか。その他大勢冬の小鳥たちの総出演だといいですね。河原を歩きますので足ごしらえはしっかりと。

松伏町・緑の丘公園探鳥会

期日：1月18日（日）

集合：午前10時15分、松伏町大川戸緑の丘公園予定地。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口から茨急バス大正大学入り口行き9：20発、または9：45発にて「新川西」下車。公園予定地のため駐車場はありません。

担当：橋口、榎本(建)、田邊、吉岡(明)

見どころ：県営緑の丘公園(仮称)の探鳥会も3回目となりました。松伏町大川戸の田んぼに20年計画で建設されていますが、本年度は池の工事がなかったため、夏にはゴイサギが繁殖し、秋口にはアマサギなどサギの仲間のねぐらにもなりました。今シーズンは、カンムリカイツブリが初めて入り、カモ類も期待できそうです。シラコバトも待っていますよ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月24日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月25日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、または所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)

見どころ：早起きと寒ささえ克服すれば、冬はバードウォッチングにうってつけ。鳥種が多く、初心者にも見やすく、判りやすいカモの仲間がいるのでみんなで楽しめます。

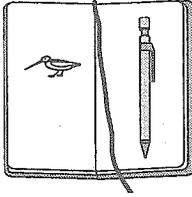
蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月25日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前

担当：田中、玉井、中村(榮)、菱沼(一)、吉安、長嶋、長野、榎本(建)、松永

見どころ：黒浜沼周辺は、沼、アシ原、田んぼ、屋敷林、畑と、多様な環境のため、出現種も多種にわたります。特に1月の黒浜は冬の水鳥、小鳥たちを探すのに最適で、昨年はおオタカ、タシギ、カワセミなども出てくれて、37種でした。



行事報告

5月10～11日(土～日) 長野県 白馬山麓

参加: 22人 天気: 晴時々曇

カイツブリ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ イソシギ ハチクマ トビ ノスリ キジ キジバト ツツドリ フクロウ アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ コルリ マミジロ クロツグミ アカハラ シロハラ ヤブサメ ウグイス オオヨシキリ メボソムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル シメ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (64種) いつもの春より季節の進み方が早いようだ。それでも居谷里湿原ではアオイスミレやサクラスミレが、定麟寺ではギフチョウ、ヒメギフチョウが、みそらの田圃ではキバナイカリソウが私たちを迎えてくれた。「一步」の周りはノジコ、クロツグミ、キビタキ、オオルリなどの野鳥で一杯だった。2日目の猿倉では、白馬連山を仰ぎ見ながらの昼食が美味しかったし、姫川源流の流れに揺れるパイカモの清楚な白い花には心が洗われる思いがした。白馬の春はいつも心が満腹になるのがいいのだろう。(小池一男)

10月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 59人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ バン キジバト カワセミ コゲラ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 全員でカワセミが観察できたほか、コ

ゲラの群れが近くに来てくれた。河川敷ではノスリが4羽、オオタカとチョウゲンボウの争いもあって楽しめた。タコノアシが紅く色づき、ツリフネソウとミゾソバの花が咲いていた。(岡安征也)

10月5日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 50人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ ハヤブサ チョウゲンボウ バン イソシギ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 差間コースは大がかりな工事が始まって通行止めが多い。コースを変更してヘルシーロードへ。この日は青い空にかなりの数のカケスが移動していくのが見られた。季節の変わり目。冬鳥が出そろうのはもうすぐ。(手塚正義)

10月5日(日) さいたま市 秋ヶ瀬大久保農耕地

参加: 25人 天気: 晴

カワウ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ オオタカ チョウゲンボウ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ エゾビタキ カワラヒワ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) お約束のサギが出て、その上オオタカ、チョウゲンボウ、ノビタキ、カワセミで大満足。(福井恒人)

10月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 31人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ アオサギ マガモ カルガモ オナガガモ オオタカ チョウゲンボウ バン キジバト カワセミ アオゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ

カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシボトガラス (27種) ギンモクセイの咲く小路を通してスタートする。土手に出るとモズがすぐ目に入ってきた。初めての方は、モズがきれいな鳥であることに驚きの声を上げていた。桜並木の所で皆がアオゲラに夢中になっているとき、チョウゲンボウが突然畑の中に突っ込みスズメを捕まえた。すぐさま電柱の上に飛び上がり、ゆっくりとおいしそうに食べ始めた。その様子を皆でじっくりと観察できた。明戸の堰ではカモ類がまだ少なくて残念だった。最後に対岸にオオカカが出てくれた。(中里裕一)

10月18日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11人

伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、志村佐治、原田譲、藤野富代、増尾隆、百瀬修

10月19日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：43人 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ミサゴ トビ チュウヒ バン オオバン コアオアシシギ アオアシシギ ハジロクロハラアジサシ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシボトガラス (40種) 昨年10月の探鳥会と比べてみた。ミミカイツブリとカンムリカイツブリが入っていた。カモ類は変わりがないが、今年10日早く実施したためか、ジョウビタキとアオジに出会わなかった。しかし、渡り途中のハジロクロハラアジサシが非常に疲れているのか、橋の欄干に止まったまま動かず、至近距離からゆっくり観察できた。いつも何か期待できる渡良瀬だ。(橋口長和)

10月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：69人 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ トビ ミサゴ チョウゲンボウ バン イカルチドリ イソ

シギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボトガラス ハシボソガラス (32種) 冬鳥を期待して大勢参加。出た！青空をゆっくり、ミサゴが初出現。初めて見た参加者が多く、嬉しそう。ノビタキ、キセキレイ、カケスも出て大満足。途中、見沼たんぼの満開のコスモス畑を見てまた感激。三室は楽しいところだと再確認。(楠見邦博)

10月25～26日(土～日) 長野県戸隠・飯綱高原

参加：25人 天気：25日晴、26日曇

オシドリ キンクロハジロ トビ ハイタカ ノスリ ハヤブサ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ イカル スズメ カケス ハシボソガラス ハシボトガラス (38種) 翌日の天候が心配で、1日目から森林植物園内を探鳥した。最初にはアトリの大きな群れ、アカハラ、ルリビタキが見られ好調だったが、その後はバツとしなかった。園内はカラマツ、モミジ類を除いてほとんど落葉していた。鏡池で昼食。今年もオシドリがいた。2日目も心配したほどには天気が崩れず、宿の周辺を散策。ハヤブサはここでの初記録。イカルの群れも見られ、期待が高まる。ツグミの群れを探して園内をウロウロするが見つからず、S氏からの連絡でマミチャジナイを見ることができた。キャンプ場で、カシラダカの群れの中に綺麗な雄のミヤマホオジロを見つけて、どうにか無事に終わった。(菱沼一充)



カンムリカイツブリ (編集部)

連絡帳

●神奈川支部の事務局住所変更

新住所 〒221-0052 神奈川県横浜市神奈川区栄町2-8 横浜藤ビル6階

TEL 045-453-3301 FAX 045-453-4301 は変更ありません。

火・木・土の12:00~16:00のみOPEN。

●モニタリング調査結果報告

研究部が中心となって埼玉県支部も協力し、1994年から行われてきた鳥の生息環境モニタリング調査の集計結果が一部まとまり、本部自然保護室から送られてきました。

[森林と草原のモニタリング調査]

1994年夏、1994-1995年冬、1999年夏、1999-2000冬に実施。調査地点167カ所。

出現状況：森林ではシジュウカラとヒヨドリが出現率・個体数とも上位を占め、夏はウグイス、冬はエナガがこれに続く。

草原については、特定の種が上位にくることはなく、夏の出現率ではヒバリなど、個体数ではオオヨシキリなど。

夏の増減：シジュウカラ、メジロ、オオジシギ、モズ、シマアオジの減少が目立ち、ホオアカは全国的には減少は見られないが、北海道で減少。

[湖沼と河川を調べる]

1996-1997年冬、2001-2002冬に実施。調査地点272カ所。

出現状況：いずれの環境でもマガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモが出現率・個体数とも上位を占め、河川ではオカヨシガモ、湖沼ではホシハジロ、キンクロハジロ、内湾ではホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモがこれに続く。

河川での増減：いずれの種も全体的に減少。特にヒドリガモ、ハシビロガモは全国的に減

少。コガモ、マガモ、オナガガモは関東近郊での減少が目立つ。

湖沼での増減：特に東日本でミコアイサが増加。

内湾での増減：ホシハジロ、ホオジロガモがすべての調査地で減少。

なお、増減については、いずれも2回の調査の比較のみで、実際の増減を示していない可能性がありますので、ご注意ください。

この調査結果の一部は、<http://birdbase.hokkaido-ies.go.jp/>の「生息地の情報を見る」で見ることができます。

●1月の事務局 土曜と日曜の予定

10日(土) 2月号編集作業。普及部会議。

17日(土) 2月号校正。研究部会議。(ご注意：校正作業は、午後4時からに変更します。)

24日(土) 袋づめの会。

25日(日) 役員会。

●会員数は

12月1日現在2,497人です。

活動報告

11月8日(土) 12月号校正(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司)。

11月16日(日) 役員会(司会：田中幸男、各部の報告など)。

11月21日(金) 支部報だけの会員向け、12月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編集後記

本部の監事として関与していた財団法人の寄付行為改訂案が認可され、ひとまずほっ。新しいハイビジョンビデオカメラの横長構図にも慣れてきて、12月初めの今、鳥達と共に画面作りに参加するのは、紅葉・黄葉・赤い実や枯葉……けっこう多彩。(海老原)

しらこぼと 2004年1月号(第237号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社